

---

## 「Stanford A型急性大動脈解離における術前のフィブリノゲン値と術中術後成績の検討」に関するお知らせ

---

このたび、当院で診察を行った患者さんの電子カルテの情報を用いた以下の研究を実施いたします。

本研究は、埼玉医科大学国際医療センター臨床研究 IRB の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。

本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

### 研究の概要について

#### 1. 研究の対象となる方

2017年9月1日～2023年12月31日の期間に、埼玉医科大学国際医療センターでStanford A型急性大動脈解離に対して人工血管置換術を行い、術前に血中フィブリノゲン値を計測した患者さん

#### 2. 研究の目的

大量出血を伴う心臓血管外科手術において止血は重要な要素です。血中フィブリノゲン値は心臓外科手術において術中の出血に及ぼす影響は大きいとされています。当院で行った急性大動脈解離の手術において術前のフィブリノゲン値が手術に及ぼす影響を後方視的に検討します。

#### 3. 研究期間

病院長の許可後～2029年3月31日

#### 4. 利用または提供の開始予定日

研究実施許可後から、約1か月程度

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

### 研究に用いる試料・情報について

#### 1. 試料・情報の内容

電子カルテから、年齢、性別、術前診断、手術日、病型分類、血管径、発症日、症状、発症から手術までの時間、術前フィブリノゲン値、術前の状態、術式、使用した人工血管の種類、手術時間、止血時間、人工心肺情報、挿管期間、術後気管切開の有無、術後新規透析の有無、その他術後合併症の有無、ICU滞在期間、入院期間、在院死亡の有無、最終フォローアップ日を調査します。

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学国際医療センターにおいて、研究責任者である熊谷 悠が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

## 2. 試料・情報の取得方法

電子カルテから情報を収集します。

## 3. 試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学国際医療センター 心臓血管外科 熊谷 悠（研究責任者）

## 4. 試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学国際医療センター 病院長 佐伯 俊昭

### お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学国際医療センター 心臓血管外科 熊谷 悠（担当者氏名）

住所：〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

電話：042-984-4111（土日祝日を除く 8：30～17：30）

○研究課題名：Stanford A 型急性大動脈解離における術前のフィブリノゲン値と術中術後成績の検討

○研究責任者：埼玉医科大学国際医療センター 心臓血管外科 熊谷 悠